

副(複)業型自伐林家のススメ 全国に広がる「土佐の森方式」

～地域に根ざした小規模分散型自伐林業システムの
の確立～

間伐材・林地残材の収集運搬システムのご紹介

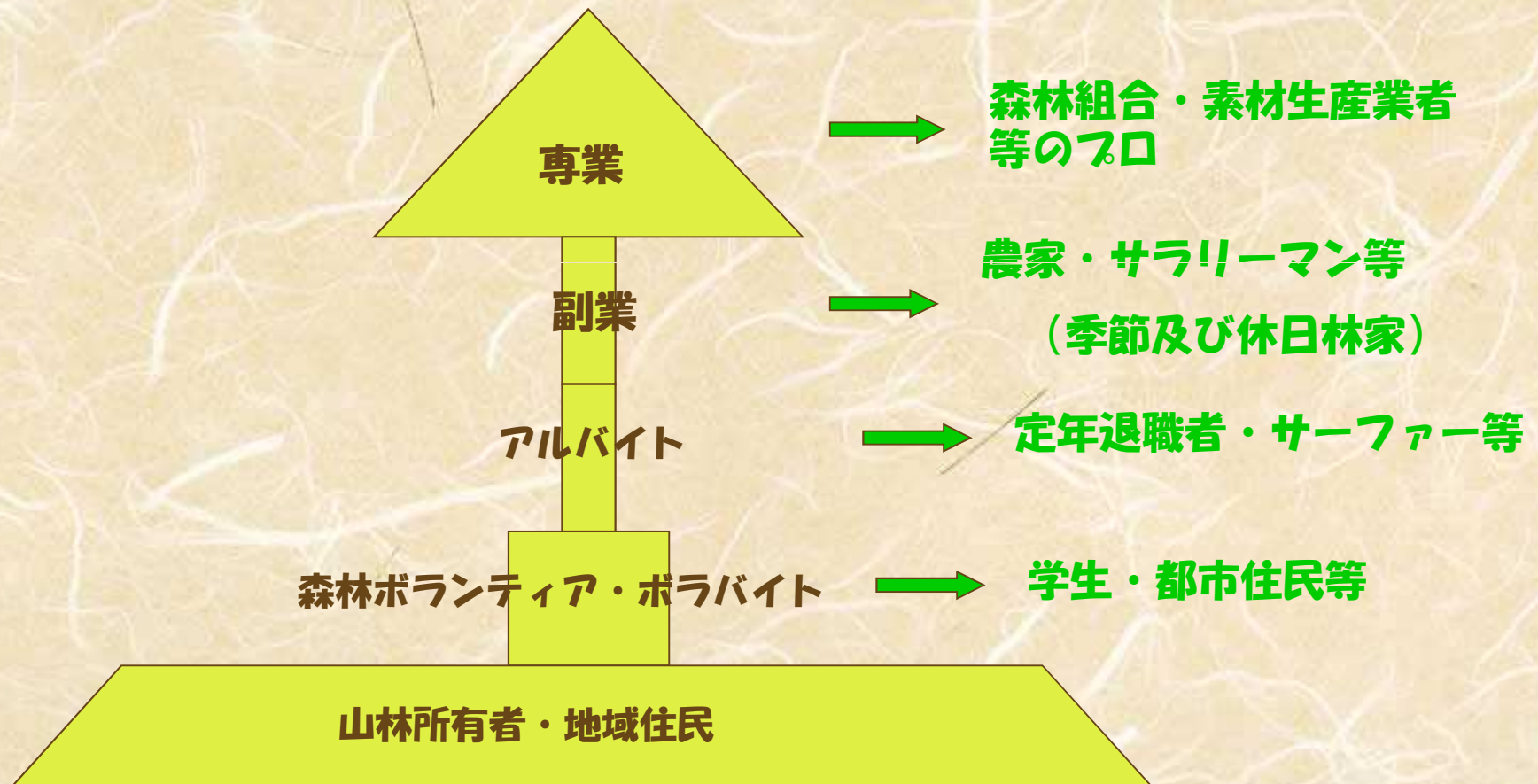
林業雇用50万人創出に向けて

バイオマス産業社会ネットワーク第116回研究会 2012. 8. 30

NPO法人 土佐の森・救援隊 中嶋 健造

フロローク (いびつな構造)

いびつな現状の林業人口構造ピラミッド



フロローク (いびつな構造)

いびつな現状の林業人口構造ピラミッド



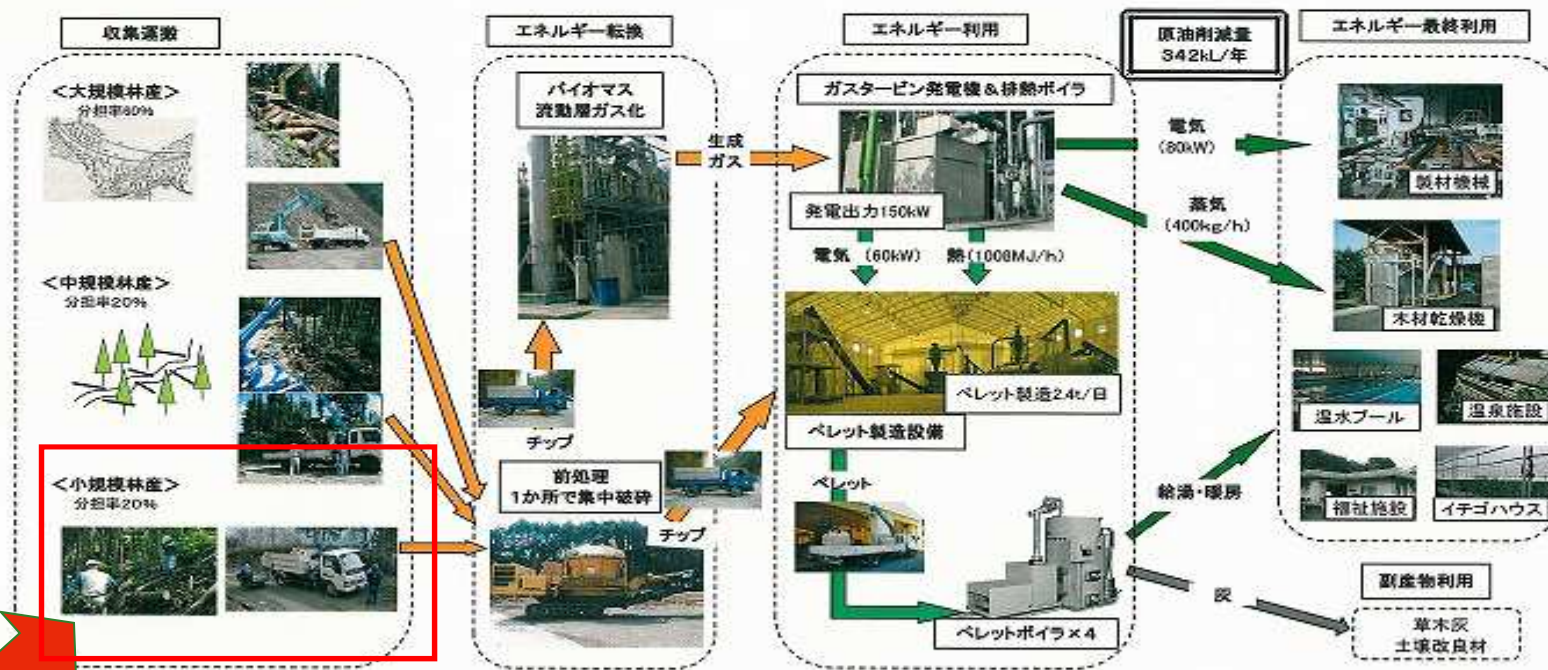
本来の林業構造ピラミッド (こうあるべきではないか)



ステップ・アップを支援する
仕組みや組織が必要

高知県仁淀川流域エネルギー自給システム

- ・原料は全て林地残材（2000t/年）フランク稼働時間：8h
- ・川上、川中、川下のバランスをとる（地域内循環で需給バランスを）



これまで林地残材の収集運搬システムは採算が合わず、国内での成功事例なし

事前アンケート結果（全戸配布_{3000戸}）

山林所有：**704**
未所有：146

所有面積

0～3ha：244
3～10ha：**248**
10ha以上：**183**

山の手入れ

整備している：**327**
今後検討：**192**

ボランティアへの参加意思

ある：**364**
理由No1：**防災対策**
理由No2：**水源確保**

年間施業日数

0～30：542
30～100日：**56**
100日以上：**25**

材の搬出

自分で実施：**107**
他に委託：**77**
していない：127

参加日数

年数回：234
月1～2日：**62**
月3～5日：**27**
毎週土日：**9**

思った以上に地元の山林所有者が多く、材搬出に対する意識が高い。また、間伐ボランティア参加の意思も高い

材搬出意思

作業道・技術指導受けければ
する：**116**
条件次第で検討：**209**

アンケート結果からわかること

- 山林所有者のほとんどは農山村地域に残っている
- この山林所有者の悲痛な声が
「我々は山を捨てたくはない、
かつてのように林業をしたい！
たとえボランティアであっても」
- 故に新たな施策（木質バイオマスシステム）への期待が現れていると言える。山林所有者の林業をもう一度やりたいとの切実な願いを感じる。

小規模林産収集システム

- **定義**

地域の自伐林家や森林ボランティア団体を主体とし、地域住民や団体、全員を対象

地域ぐるみの収集運搬システムを構築 = ビジネスベースの企業・団体だけでなく、自伐林家・農家・サラリーマン、環境保全ベースや地域づくりの個人・団体、さらに趣味ベースの個人も対象として、きちんと位置付ける

- **当初の専門家の意見**

個人等の素人に材の搬出を期待するのは無理がある。搬出割り当ても最小限に。

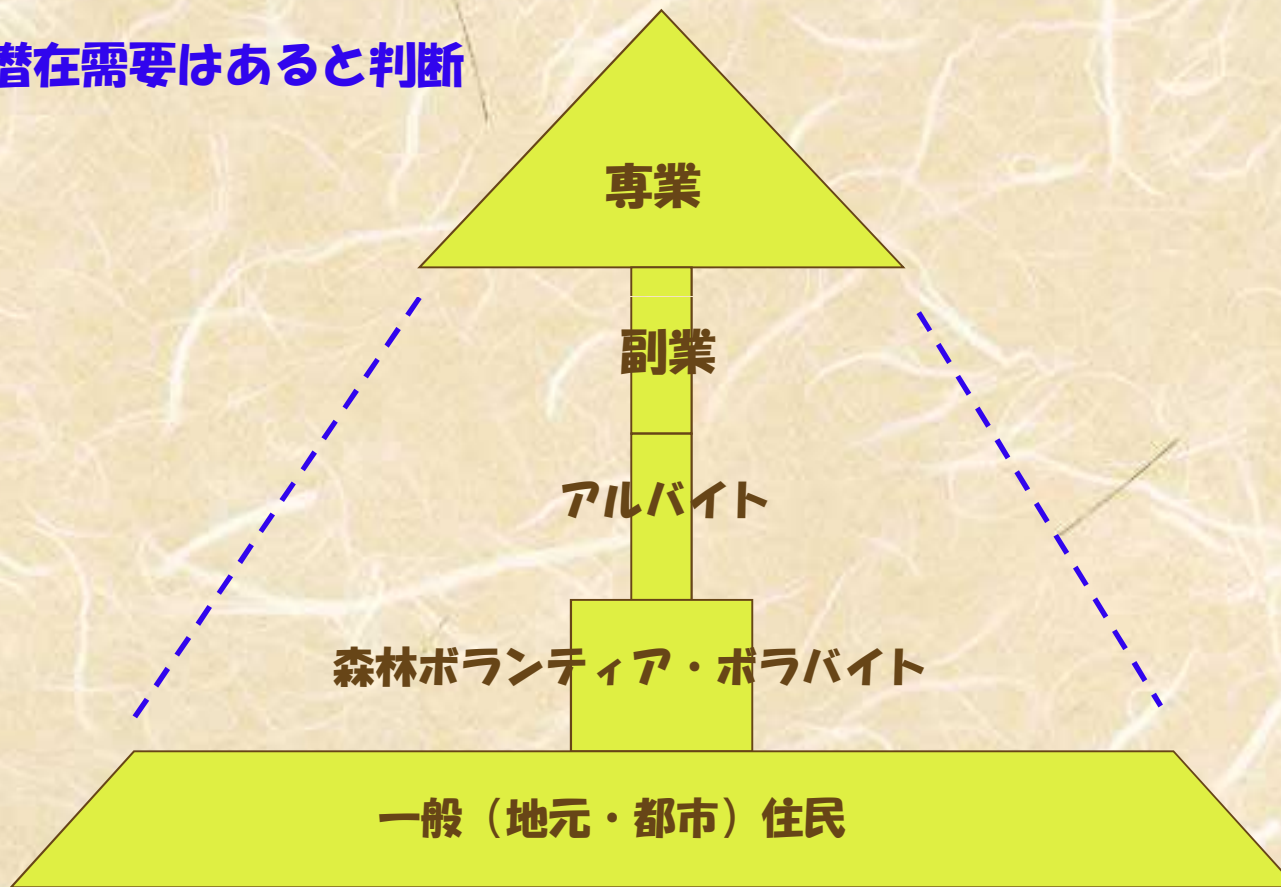


土佐の森・救援隊のメンバーや活動を通じて見てみると

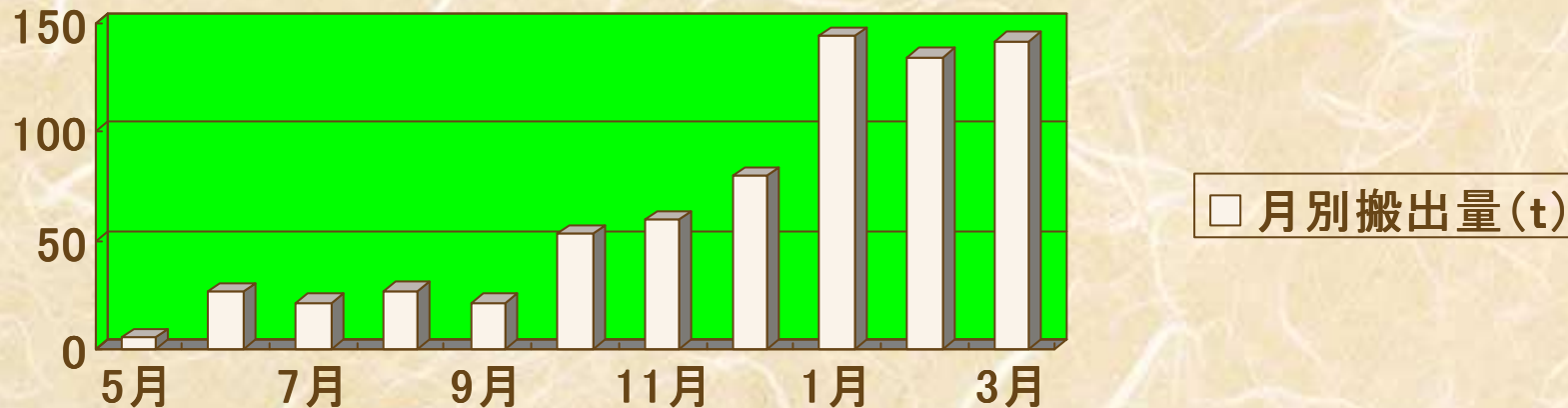
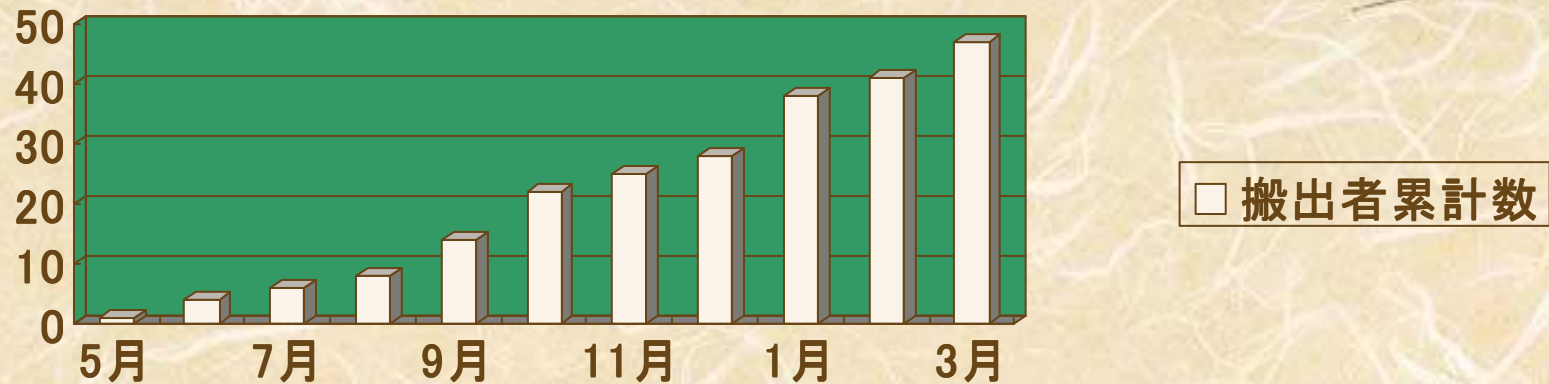
この意見は間違っているなど判断できた

小規模林産対応者のポテンシャル

潜在需要はありと判断



小規模林産の林地残材搬出状況（初年度）



先のアンケート結果は驚き（個人の搬出実績や搬出意思の高さに）の結果であったが、その結果を上記のデータは証明しつつある。

収集運搬割り当て計画の推移

- 大規模：6割
- 中規模：3割
- 小規模：1割

当初

- 大規模：6割
- 中規模：2割
- 小規模：2割

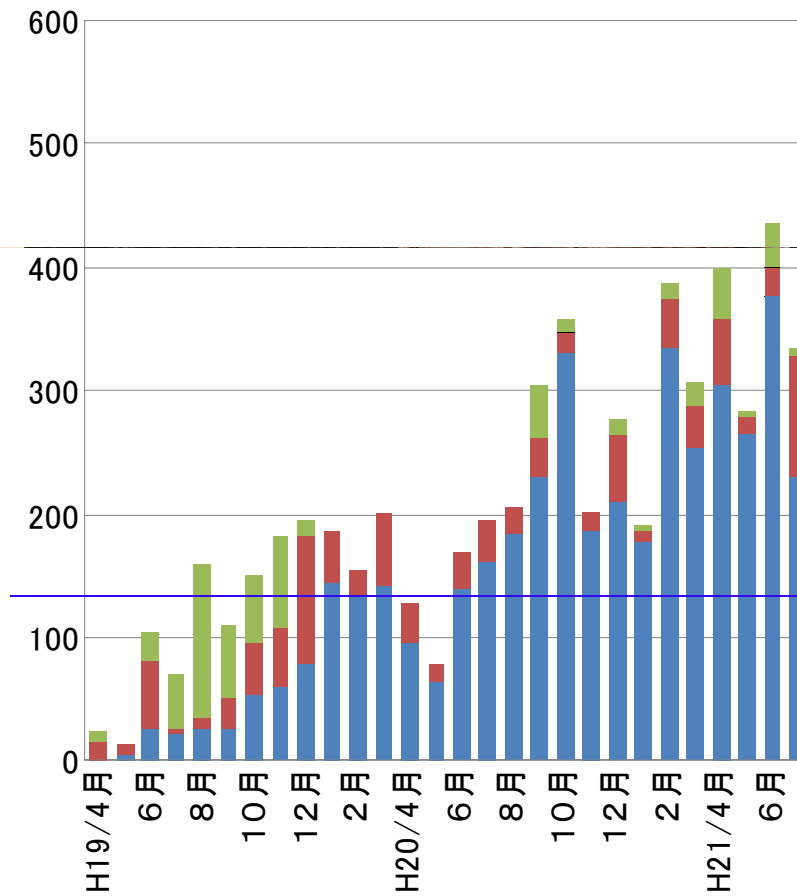
- 大規模：4割
- 中規模：2割
- 小規模：4割

現在

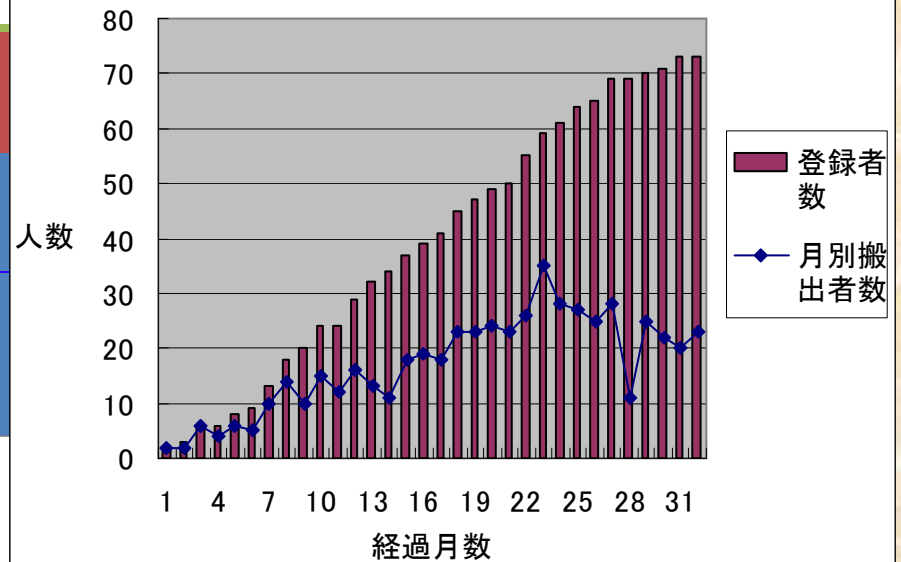
- 大規模：1割
- 中規模：1割
- 小規模：8割

林地残材の搬出状況

月別収集実績(ト)



搬出登録者及び月別搬出者数の推移



自伐林家は、多様でいい森をつくる



豊かな森林づくり施業モデル林

この森林は、人工林における公益性と経済性の両立を目指した森林づくりの施業モデル林です。

目標とする森林の姿

【森林づくりの施業体系(経過)図】

豊かな森林とは

- 保水力の高い森林
- 木材の生産力の高い森林
- 多くの樹種が混生する森林
- 小鳥など野生動物の住める森林

【施業の方針等】

- 非密伐・長伐期施業を基本に
- 間伐施業の徹底(利用密伐)
- 下層広葉樹の育成
- 効率的な間伐施業の追求

設 置 平成10年 3月 20日 東北林業振興事務所



自伐林業は「地域に根ざした脱温暖化・環境共生型林業」

專業型自伐林家の徳島県那賀地方のHさん 銘木を育て原木出荷だけで生計を保つ（100ha所有）



自伐林家（小規模林業）の施業の特徴

- 自分所有の山であるため愛情がこもる
- さらに頻繁に山には入り手入れするため「いい森」がつくられる（水源涵養、生物多様性、災害に強い森）
- 毎年継続して収入を得るため長伐期施業化する
- 低投資で人海戦術型であるため、経費が少なく労働対価が多い（現在の材価でも収入になる）
- 大儲けはできないがそこそこの収入となる
- 山を林業だけでなく農業利用もできる
- 生業としてだけでなく副業でもできる（農家やサラリーマンの副業）



森づくりと、収入を上げる施業とを両立させる
永続的な森林管理・持続可能な林業の展開

小規模林業による収入

- スギ約1万/m³、ヒノキ約2万/m³：市場
- 立木：約300m³/ha
- 3割間伐したとすれば約100m³
- このうち50~70m³が用材になったとすると
- スギで50~70万、ヒノキで100~140万/haの収入
- +残りの材はパルプ原料・エネルギー利用に15~20万
- 他にも間伐・搬出補助金も入る(20万程度)
- 作業道も自ら造ることができれば収入になる(約20万)
- これをいい収入と見るか、安いと見るか
(スギ：100~125万、ヒノキ：160~195万程度/1ha)
- 農家が農閑期に、会社員が休日に、林内作業車とチェーンソーぐらいの機具で搬出できれば、いい副業では
- 60年(長伐期)を超えてくるとかなりの収入

自伐林業スタイル（＝林業・山村文化）

- シンプルで低投資な施業

チェーンソー＋林内作業車＋軽架線＋小型ユンボ
2～3m程度の山にやさしい作業道

- 臨機応変な販売先対応

原木市場・種々の製材所・チップ業者・バイオマス集積場、他

- 森林の多目的活用

林産物（楮・三桠、シキミ・サカキ、シイタケ・キノコ、精油・炭・木酢液、タラ・ウド・コシアブラ、生け花用草木、松葉酒等）

森林エコツアー、林家民宿、猟（イノシシ・シカ・鳥）、焼畑

- シンプルな加工・販売（6次産業化）

丸鋸製材・製品化・リフォーム

- 永続的な森づくり

山が荒れれば収入に直結する故、森づくりが生命線
水源涵養力、生物多様性力、災害に強い森に

一度消滅した、山村の仕事が復活

しかし

- 林業界や行政は大規模集約林業に集中
- 自伐林家は蚊帳の外
- 切り捨てられているのが現状

でも

森をよくするには



農山村を活性化するには

長伐期で多面的機能を発揮する人工林をつくり、雇用拡大が見込める自伐林家が増えれば画期的に山がよくなり、農山村振興となる

- 要するに自伐林業を支援する仕組み、増加させる仕組みをつくることが大事

「森林・林業再生プラン」の支援要件

- **森林経営計画 属人：100ha以上**
属地：林班の1/2以上
- **森林所有者を飛ばし、業者に補助金を直接支払い**
- **1年間の間伐面積：5ha以上**
- **搬出材積：10m³/ha以上**
100m³が最大補助単価になる
要するに出せば出すほど補助金を上げる



初期間伐の場合、建築用材率は3～5割、100m³搬出ということは、間伐材積は200m³以上ということ、立木材積300m³/ha故、間伐率は7～8割間伐を容認したということ

① C材で晩酌を！事業の概要

森林ボランティア活動地



C材
(低質材→短コロ等) 枝葉



帰途ついでに運搬

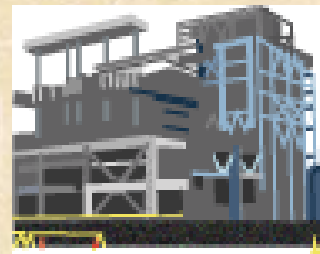
軽トラック空で出発



居住地

森林ボランティア団体が収入を得るのではなく、ボランティアに参加している個人の収入になるようにすると、皆喜んで実践するようになった。ボランティアへの勧誘もしやすくなると思われる。要するに間伐している山をあたかも自分の山のように感じさせる仕組みとなる。**山林未所有者も自伐林家になれる！**

破砕地（木質バイオマス工場）



※モリ券GET！

※モリ券を積んで帰宅



C材で晩酌を！

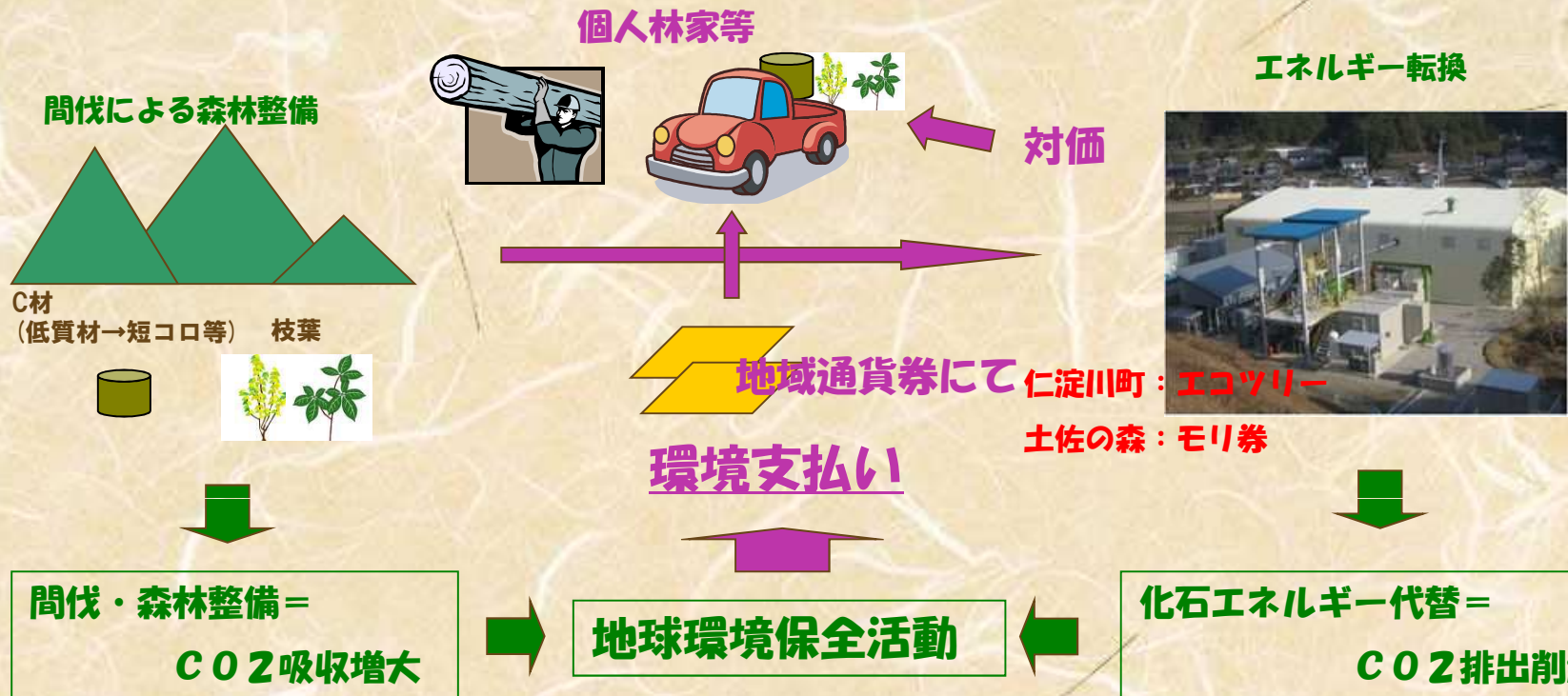


数万円～20万円/
月の収入を得始めた
方が続出

また新たに林業を始
める方が続出

地域にとってなくては
ならない副業に！

② 残材を通貨に！ ～環境支払い制度の導入～



財源 (エコツリー) = 排出量取引収入 + 森林環境税 + 自主財源 地域振興費等
 財源 (モリ券) = 企業等の協賛金等

このシステムは、木質バイオマス利用推進活動 (地球環境保全活動) が、地域経済活性化に直接つながる画期的なシステムであると考えられるがいかが？

持続可能な木質バイオマス地域循環システムへ

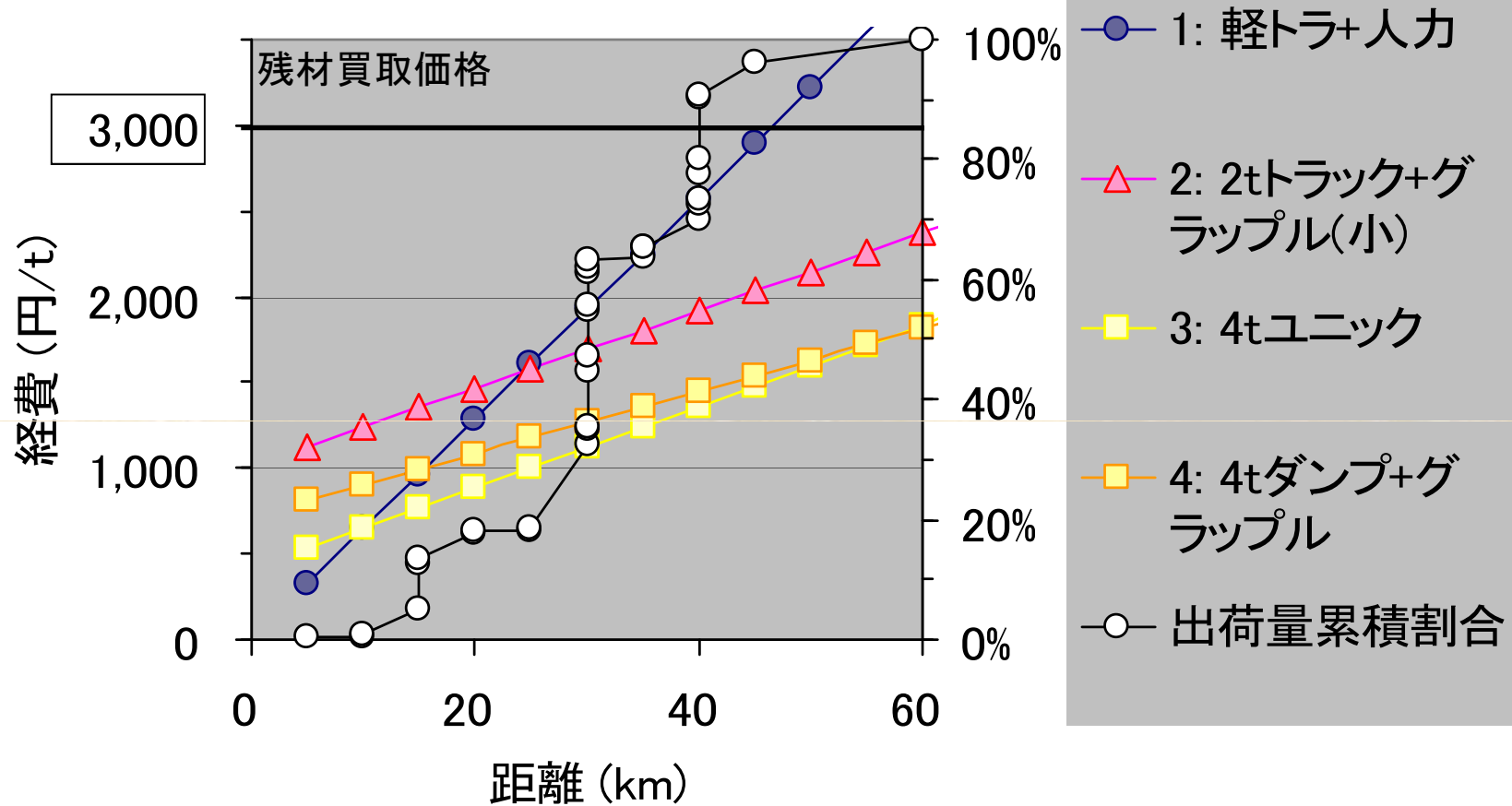
このシステムのアピール点（搬出者アンケートを元に）

- 小規模なNPOや個人が多数参入することにより、材の安定供給が実現している
- 小規模林業の下支えの仕組みとなり、拡大させる仕組みとなる。要するに小規模山林所有者へ新たな収入の道を開き、新たに林業参画者が続出しており、画期的な林業改革システムとなっている。またほぼ全員「間伐の促進につながっている」と回答
- 小規模林産が入ることにより、特定の企業・団体だけの仕組みでなく、地域住民やNPOを巻き込み、「エネルギー自給システムを核とした地域づくり・地域内循環システム」として展開できている
- 中山間地の農家・林家・住民の副収入先となり、地域の雇用・経済の拡大につながる。モリ券(地域通貨券)によりさらに増幅できる。(今回提案のモリ券は、労働に対する謝礼的なものとなり、日本通貨と交換されたものでないことが特徴。こういうモリ券はおまけにもらった感覚があり、比較的高価な地場産品や有機野菜等との交換がされやすく、地域資源で頑張る一次産業の強い味方となる)
- 山村地域の雇用のセーフティネットに、林業のセーフティネットに
- エリア外都市部の住民や企業も巻き込むことができ、グリーンツーリズム・都市との交流事業として付加価値も生まれている



山村再生の中核になる可能性を秘めたシステム

残材搬出経費 (トンあたり)



- 出荷量は30km前後が多い。最大40km程度まで
- 残材買取の基本価格以下となる距離とほぼ一致

土佐の森方式 収集・搬出方法

～土佐の森方式軽架線～

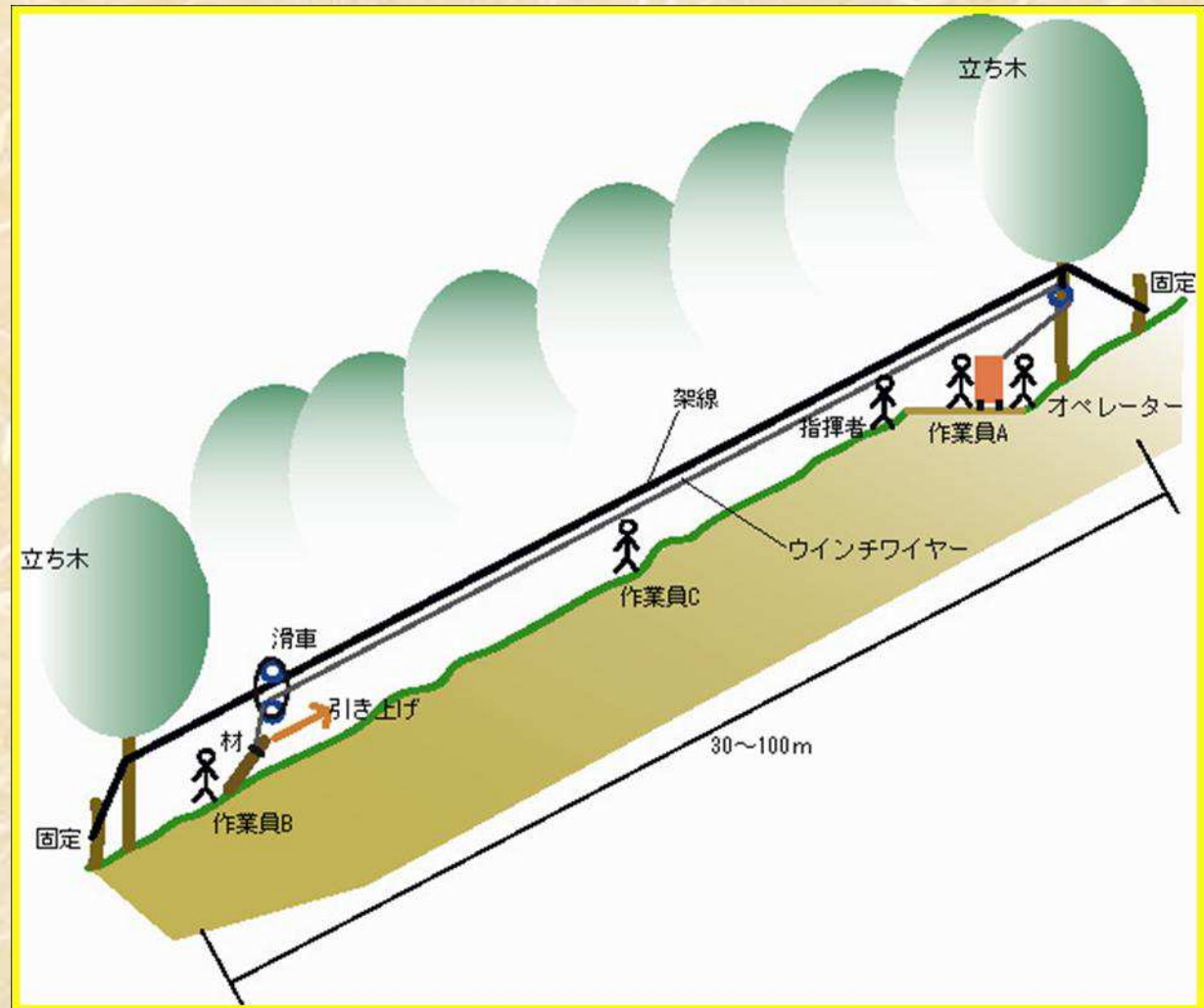
人数：3～7人

搬出量：5m³/1日：5h

林地残材：2～3トン

簡易な架線を敷設し、主に林内作業車のウインチと滑車を用いて搬出する。

材の収集・搬出状況



「土佐の森方式軽架線キット」を開発(商品化)



- 商品開発：NPO法人土佐の森・救援隊
- 販売元：網屋産業（いの町）
- 値段：200,000円

副業型自伐林家養成塾

県内外から毎年
約30名が参加



広がる土佐の森方式

～準備地区含め34地域が導入開始～

中日 09/10/12 (岐阜県内)

■既に導入地域

- ・岐阜県恵那市・鳥取県智頭町・愛知県豊田市・岐阜県大垣市・高知県嶺北地域
- ・島根県大田市 & 津和野町 & 浜田市弥栄・熊本県阿蘇市・山梨県道志村
- ・福島県鮫川村・岩手県大槌町吉里吉里、和歌山県北山村

■導入準備地域

- ・兵庫県丹波市 & 篠山市・福島県川内村・埼玉県秩父市・島根県雲南市・奥出雲
- ・岡山県美作市・愛媛県内子町・高知県四万十市・大分県竹田市・宮崎県延岡
- ・東京都檜原村・岩手県遠野市・千葉県山武市・宮城県気仙沼市・栗駒地域 他
- ・全国30箇所以上の地域にて導入開始中、他検討中多数



七金七球行の田締同 万 団温



林業先進国は自伐林業へ 林業後進国は生産性一辺倒の大規模林業へ

- 森林面積が日本より少ないドイツは現在**20万人**の林業従事者が存在（日本4倍以上）
- この大部分（**8割超**）は**個人経営**
要するに**自伐林家**
- この個人経営者（自伐林家）の**6割**は、**何と農家**
- 山岳地域では多くの**農家が森林マイスター資格を取得**し、意欲的に森林経営に取り組んでいる
- この自伐林家は、**農家民宿や酪農**などと兼業している例が多い

増える自伐林家→林業の新たな展開へ

～木質バイオマスシステムが入り口となり林業家が続々誕生～

- 仁淀川流域：40人超（5年目）**林地残材搬出者は150人超**
- 岐阜県恵那市：37人（3年目）
- 鳥取県智頭町：40人（2年目）
- 高知県嶺北地域：30人（今年度から、林業地域が本気になり出した）
- 岐阜県大垣市、愛知県豊田市：？（今年度から）
- 島根県津和野町、浜田市、雲南市：？（今年度から）
- 山梨県道志村：？人（12月より）
- 岩手県大槌町吉里吉里：15人（震災被災地でも始まった）
- 兵庫県丹波市、丹波篠山、岡山美作、和歌山北山村でも始まった

小規模分散型は、倍々ゲームで広がる可能性あり



日本にもう一度林業従事者45万人復活へ

自伐林業による雇用創出力は 大規模集約林業の10倍以上

- 自伐林業は 100ha で持続的に
 専業自伐林家 2~3人、副業型はそれ以上
- 大規模集約林業のモデル事業体では、高性能林業機械導入により
 1人1日 12m³ も搬出するそうである
 4人1班故、1班で 48m³
 1haの搬出材積を 60m³ とすると
 1日に 0.8ha 間伐することになる
 年間 250日 稼働すると、1年間の間伐面積は 200ha
 10年で同じ山に戻る（1サイクル）とすると 2000ha 必要
 要するに 2000ha で 4人の雇用 ということ
- 自伐林業方式だと 2000ha あれば 40~50人の専業雇用、副業型だとそれ以上ということになる。（実際古くからの自伐林業方式導入の「吉野林業」では 1,900ha に 山守66人雇用）
- 自伐林業家が多いドイツが、日本の林業雇用の5倍あるということ
 は、こういうことであると考える

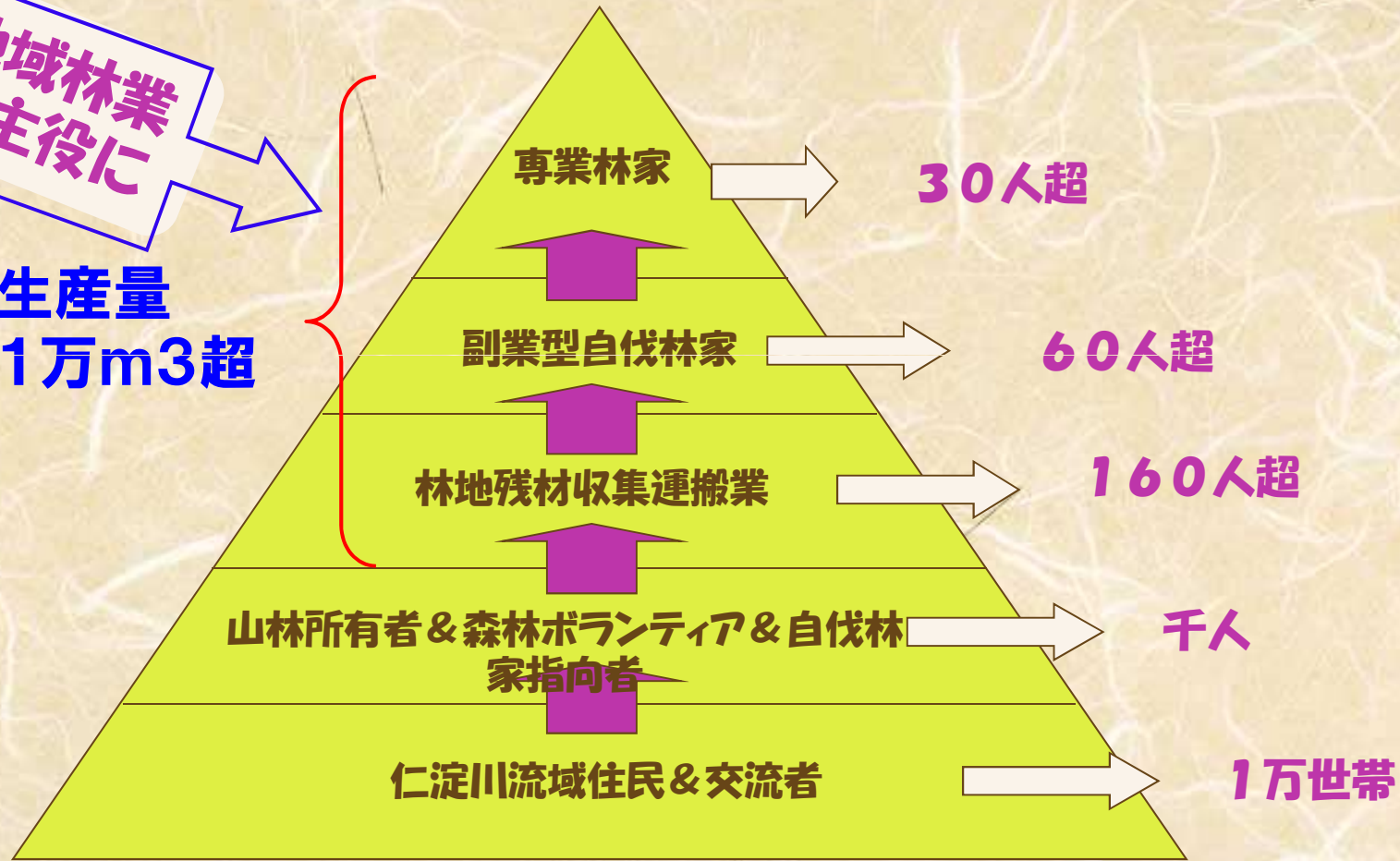
仁淀川上流域 夕方の風景



自伐林業推進は 本来の林業構造ピラミッドを再生

地域林業
の主役に

素材生産量
年間1万m³超



(仁淀川流域では)

自伐林業普及のために



自伐林業普及のため、自伐林業方式の確立（モデル事業化）や自伐林業家への補助や支援策が必要

エネルギー利用等のための、林地残材の収集システムが必要

モデル事例

● 上名野川集落

定年後自伐林業を始めたKさん兄弟、**林地残材収集システム**(仁淀川流域)の後押しがあり、**経営が安定化**。双方の息子さんが**Uターン**。近所の親子も自伐林業を始め、現在**専業型林家7人**、**副業型林家6人**、**合計13人が林業に従事**。

その林業収入を集落維持のため、**見守り(福祉)事業**の展開をもはじめている。



上名野川集落の裏山では



愛媛県境の人口71人の上名野川集落の裏山に入ると

Kさん親子が3トンユンボと林内作業車で作業道敷設中

その数百m奥で、Sさんも作業道を敷設しながら間伐中

さらにその約1km奥で、3年前にUターンしてきたKさんがIターンしてきた友人とコンビを組み、作業道を敷設しながら間伐中

その対面の山ではHさん親子3人が、作業道を敷設しながら間伐中

その他にも、3組で合計13人が集落内の山で自伐林業を展開中。この集落の男性は約30人である。

吾北生産森林組合

- 土佐の森出身者のAさんが、畜産の副業として小さくはじめた自伐林業。
- 作業道を中心に施業し、現在約75haをまとめている。来年度からは、土佐の森が展開している「副業型自伐林家養成塾」卒業生を専業雇用1人、アルバイト雇用2人を新たに雇用する予定。
- 加工(製材、木工、リフォーム等)に進出中
- 集落営林型自伐林業方式のモデル事例に！



大規模山林所有のYさん



- かつて大規模化の流れに乗り、高性能林業機械化、大規模委託林業を展開し、大失敗。
- 10年前から大規模林業から自伐林業に転換し、地道に林業を維持させている。大規模林業展開時につくった負債を返済しながら、反転攻勢をねらっている。
- 大規模山林分散型自伐林業方式のモデルになる可能性も

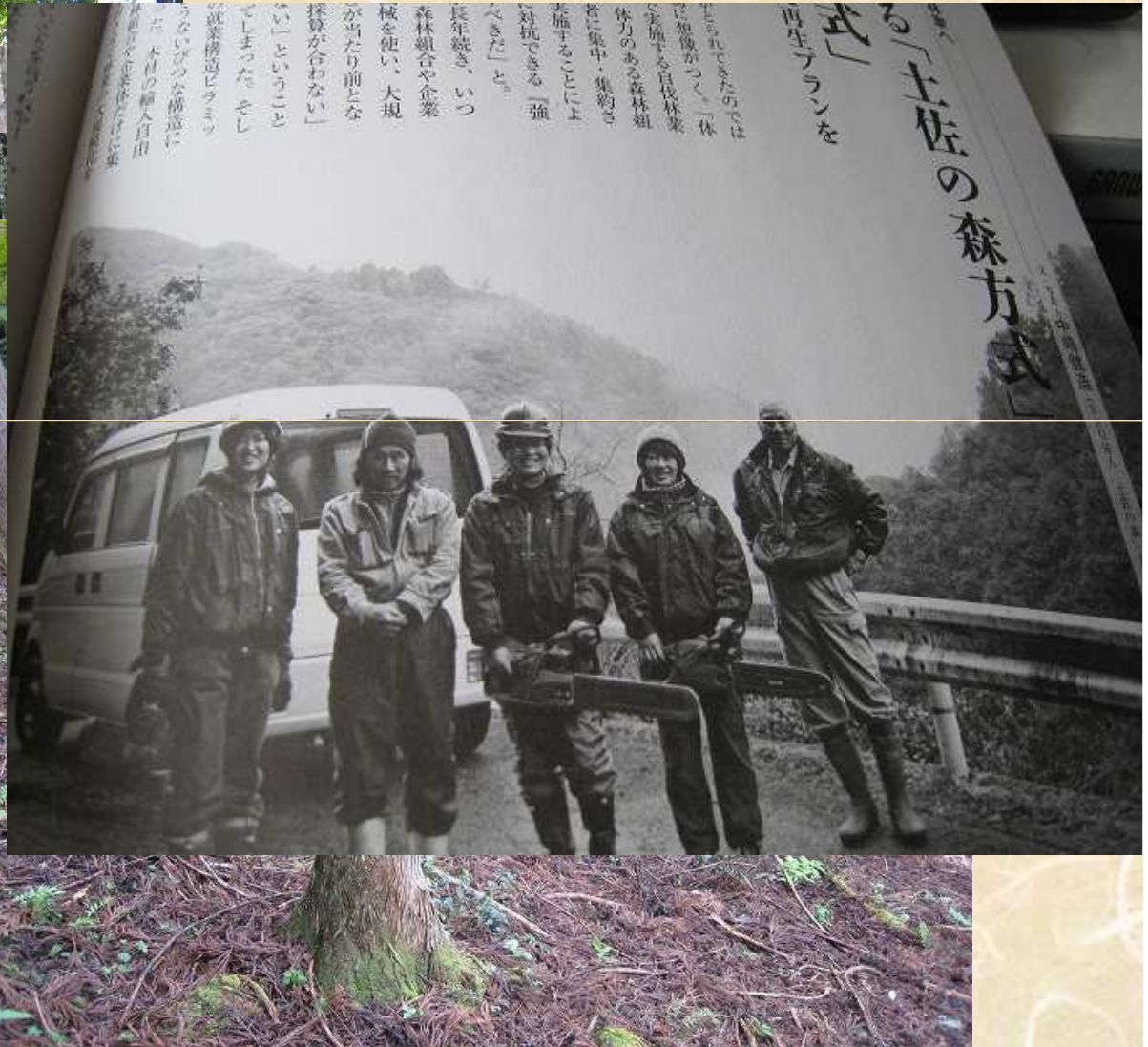
こういう自伐林業による成功・復活事例が続出中

自伐林業はスタイリッシュ

- 大規模請負型林業企業体はノルマを課せられきつい労働、どこまでいっても作業員
- 自伐林業はスタイリッシュ(以下、安藤さんの事例)



林業女子も活躍可能 (時久さん、野尻さん)



週間朝日グラビアに登場



里山を守り、地域を活性化したい
高知市から車で北に約40km。四
国を中心付近の山あいに、木山と
けは、小規模の林家や間伐ボラ
ンティアが集まって高知県の森林



山から下りてきた林は、そこで山を
守る活動が活発に行われており、
高知県の森林を、守る活動の一環

高知市から車で北に約40km。四
国を中心付近の山あいに、木山と
けは、小規模の林家や間伐ボラ
ンティアが集まって高知県の森林

高知市から車で北に約40km。四
国を中心付近の山あいに、木山と
けは、小規模の林家や間伐ボラ
ンティアが集まって高知県の森林

高知市から車で北に約40km。四
国を中心付近の山あいに、木山と
けは、小規模の林家や間伐ボラ
ンティアが集まって高知県の森林

百業型自伐林家（山村の生業スタイル復活）



嶺北地方のTさん
の森

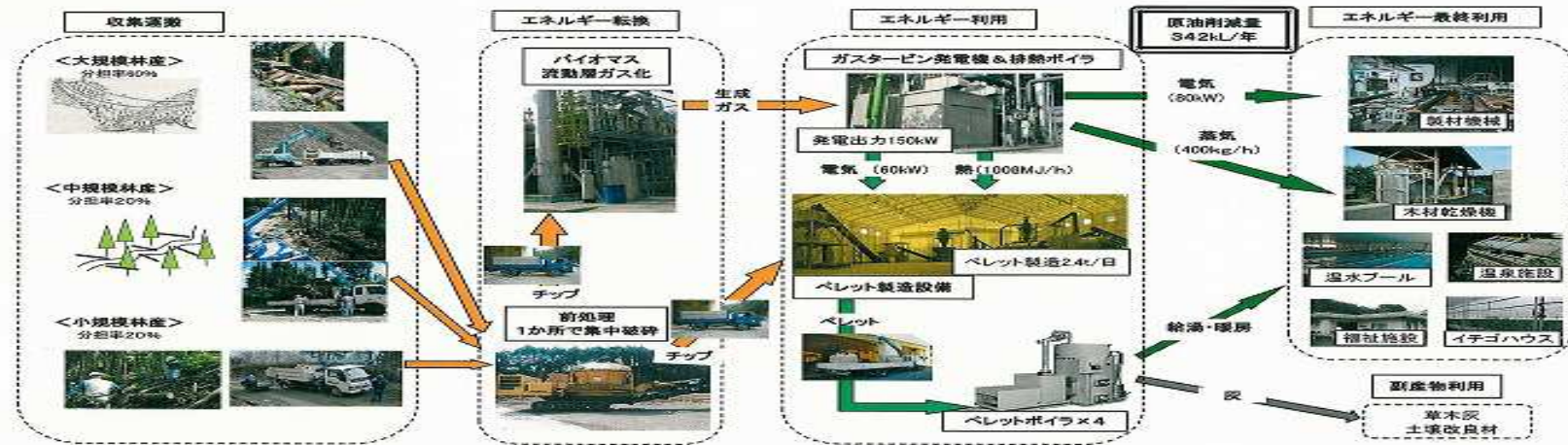
東日本大震災復興支援も自伐林業が有効

産業スタイルの変換で脱温暖化・環境共生社会、地域循環をつくり直す



木質バイオマスシステムの問題点

木質のガス化発電



原木からのペレット製造

誰でも参画可能なオープンシステムに
地域の副業に発展、
地域林業振興に発展

高投資で高性能すぎるため採算性が悪く、専門性も高く一部の団体だけの運営となる
地域住民は参画しにくい

現在の状況 薪 + パルプ利用

ガス化発電 & ペレット



ペレットボ
イラー等

(高性能、高付加価値、高投資、不採算)

薪ボイラー



薪ストーブ



薪風呂等
(山間住民)



低性能、低投資だが、地域ぐるみの薪生産、薪流通システムの構築
「薪で晩酌を！」薪生産・配達を地域の副業に

タンコロ
雑木



地域ぐるみの収集運搬

「C材で晩酌を！」

「残材を通貨に！」

制限することなく受け
入れられる仕組み及び
利用別の仕分け体制の
構築

その他
余り材



製紙チップ利用 = 最終はけ口

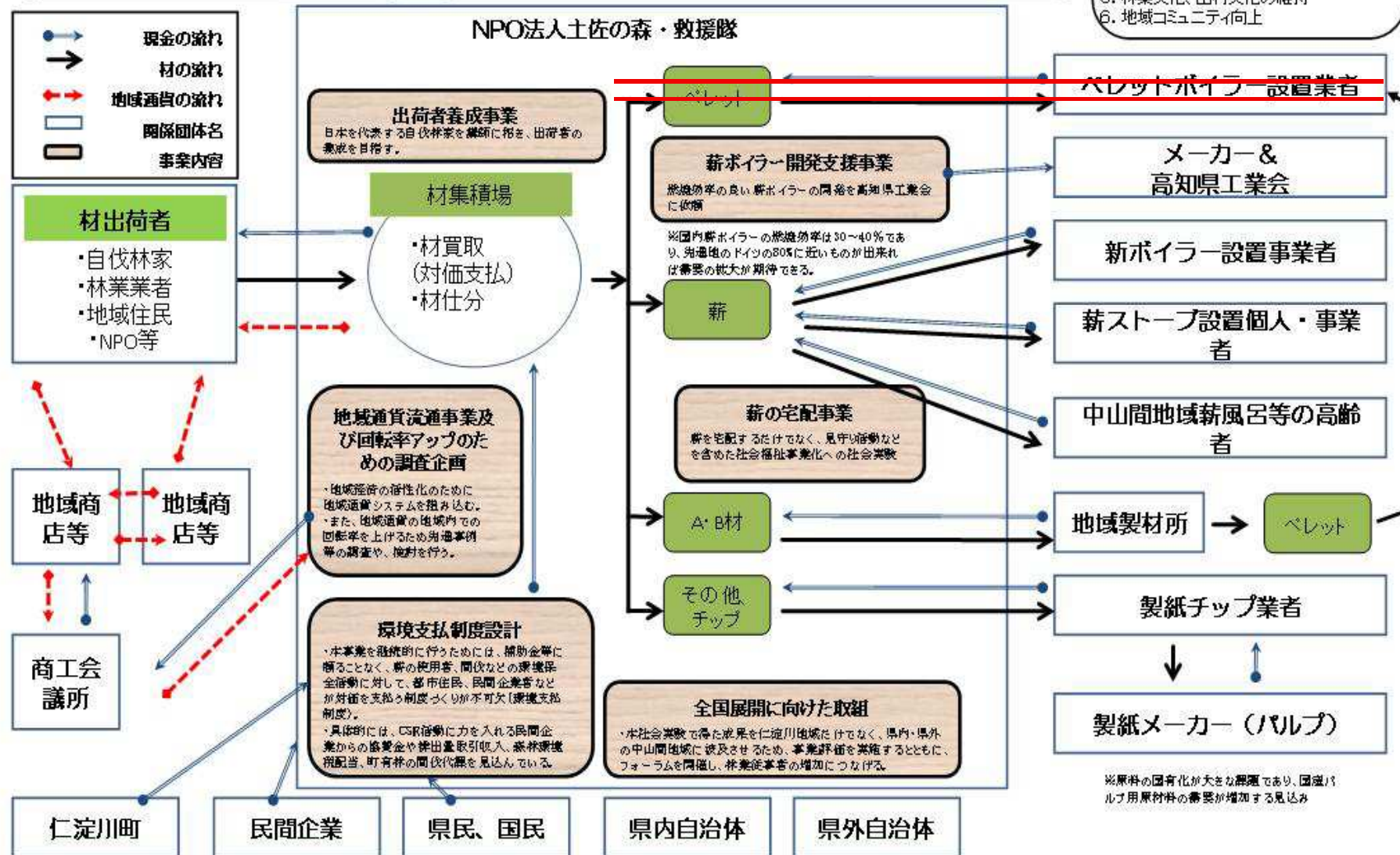
製紙用チップ



集まった林地残材のフル活用及び多段階利用システムの構築

「仁淀川流域木質バイオマス地域システムモデル(逆転の発想による中山間地域再生事業)」フロー図

事業構想	事業内容	事業効果
<p>これまでの林業行政は高性能林業機械による集約型大規模林業</p> <p>→ 逆転の発想 →</p> <p>専業から副業へ 集約から分散へ 大規模から小規模へ 高性能から低性能へ 薪の再評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木質バイオマスシステムを徹底した地域システムで構築 2. 林地残材の収集運搬業を入口とした地域の小規模林業(自伐林家的林業)の展開 3. 中山間の高齢者福祉対策、限界集落対策事業として「薪の宅配事業」を展開 4. 地域経済活性化へ直結する地域通貨システムの組み込み 5. 薪利用拡大のための薪ボイラー開発支援 6. この仕組みのモデル事業化と全国展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林業・バイオマス就業者拡大 →全国100万人雇用△ 2. 森林環境整備 (健全な森林の育成) 3. 地元商店街を含めた地域振興 4. 高齢者福祉の向上 5. 林業文化、山村文化の維持 6. 地域コミュニティ向上



土佐の森方式

自伐林業+シンプルなバイオマス利用+地域通貨
地域に根ざした脱温暖化・環境共生型

副(複)業・低投資型・参入容易・地域分散地域循環型
国策の「森林・林業再生プラン」の展開手法とは真逆

逆転の発想によるシステムづくり

- 大規模から小規模へ
- 集約から分散へ
- 専業から副(複)業へ
- 高投資から低投資へ
- 高性能から低性能へ
- 高機能からシンプル機能へ
- 高付加価値から低付加価値へ
- ペレットから薪へ

**「森林・林業再生プラン」による
大規模請負型林業一辺倒では
荒い施業も頻発する**

**皆伐や荒い作業道による森林破壊、
土砂災害**

**素材生産急拡大による市場破壊
には要注意！**

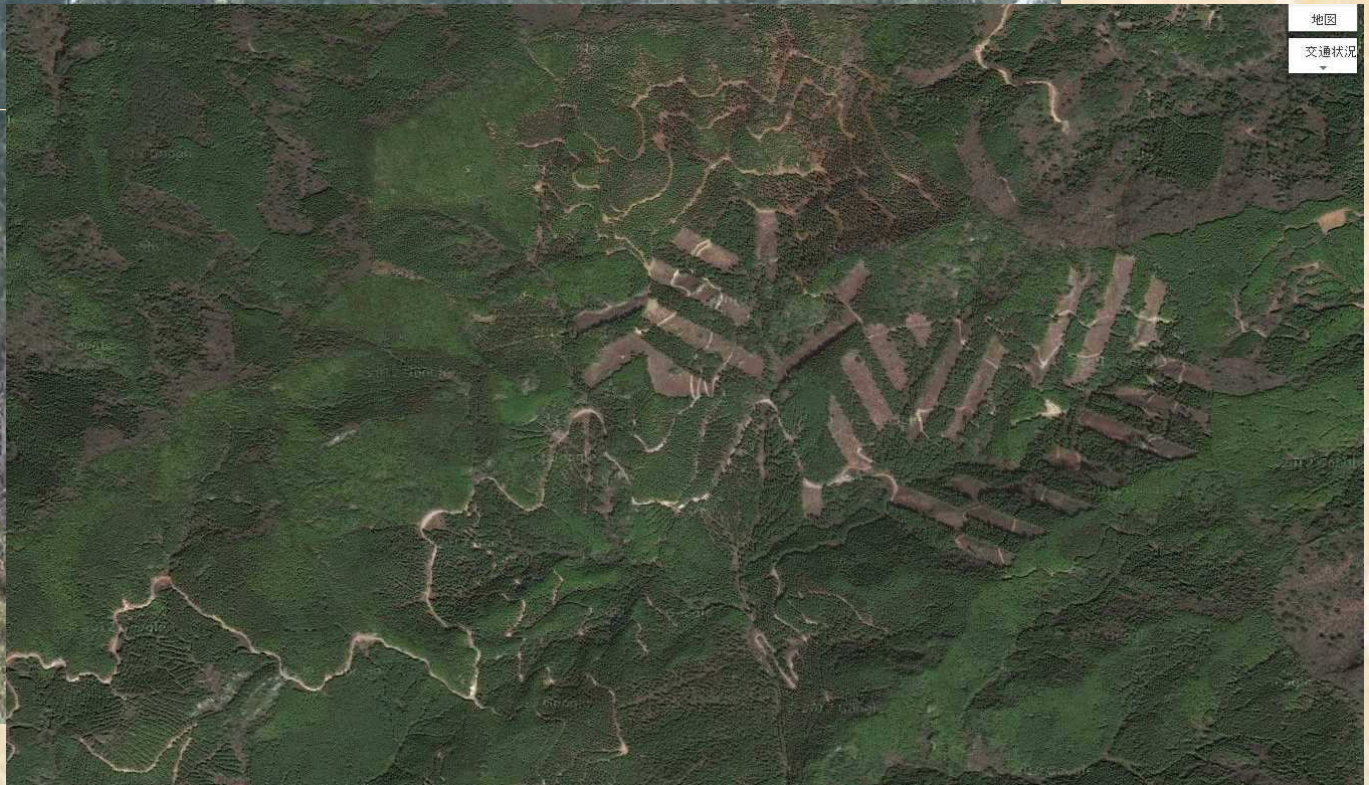
「森林・林業再生プラン」の支援要件

- **森林経営計画 属人：100ha以上**
属地：林班の1/2以上
- **森林所有者を飛ばし、業者に補助金を直接支払い**
- **1年間の間伐面積：5ha以上**
- **搬出材積：10m³/ha以上**
100m³が最大補助単価になる
要するに出せば出すほど補助金を上げる



初期間伐の場合、建築用材率は3～5割、100m³搬出ということは、間伐材積は200m³以上ということ、立木材積300m³/ha故、間伐率は7～8割間伐を容認したということ

間伐施業では



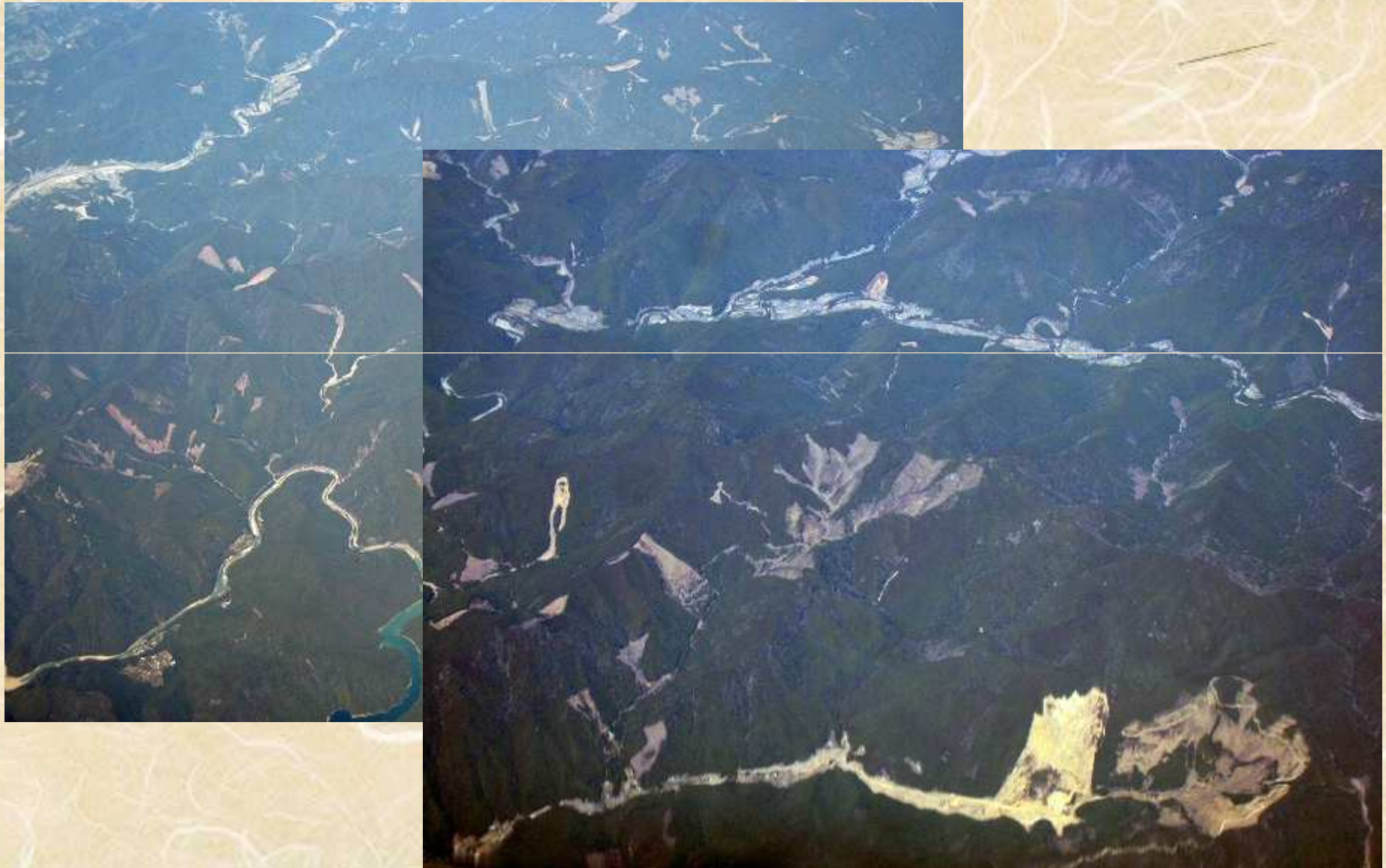
作業道はこんなものに



大規模皆伐



紀伊半島のハゲ山群



皆伐がもたらす土砂流出(災害)

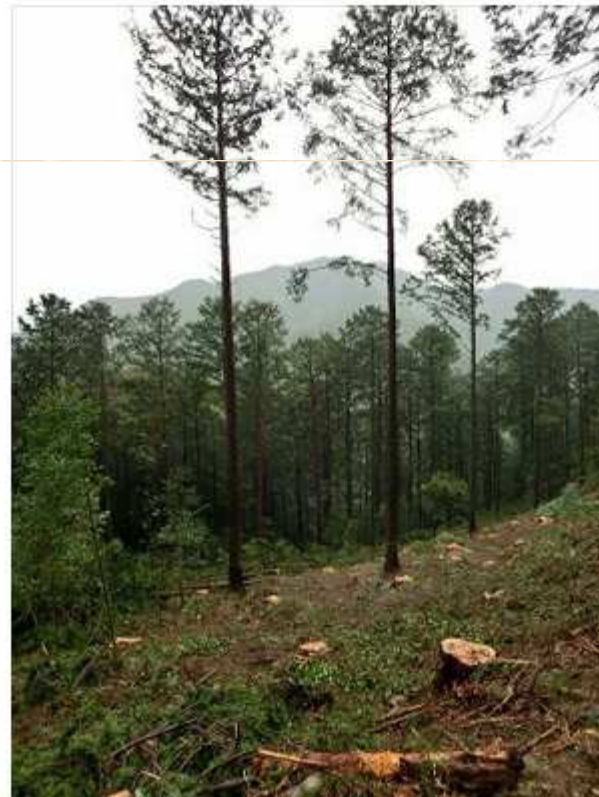


高性能林業機械必須の大規模林業は皆伐がセットに



速水 亨

よろしくお願いたします。参加のご挨拶代わりに午前中の雨の中のヒノキの伐採現場の写真お届けいたします。103年生で $d>50\text{cm}$ で四方に枝を張り、根元がしっかりした木を残しています。あまり伐りたくない素敵な雰囲気のある森林だったので、従業員もいますからね...



いいね! [コメントする](#) [投稿をフォローする](#) 3月31日 14:10、三重県尾鷲市付近

川は（ダムも砂防ダム状態に）

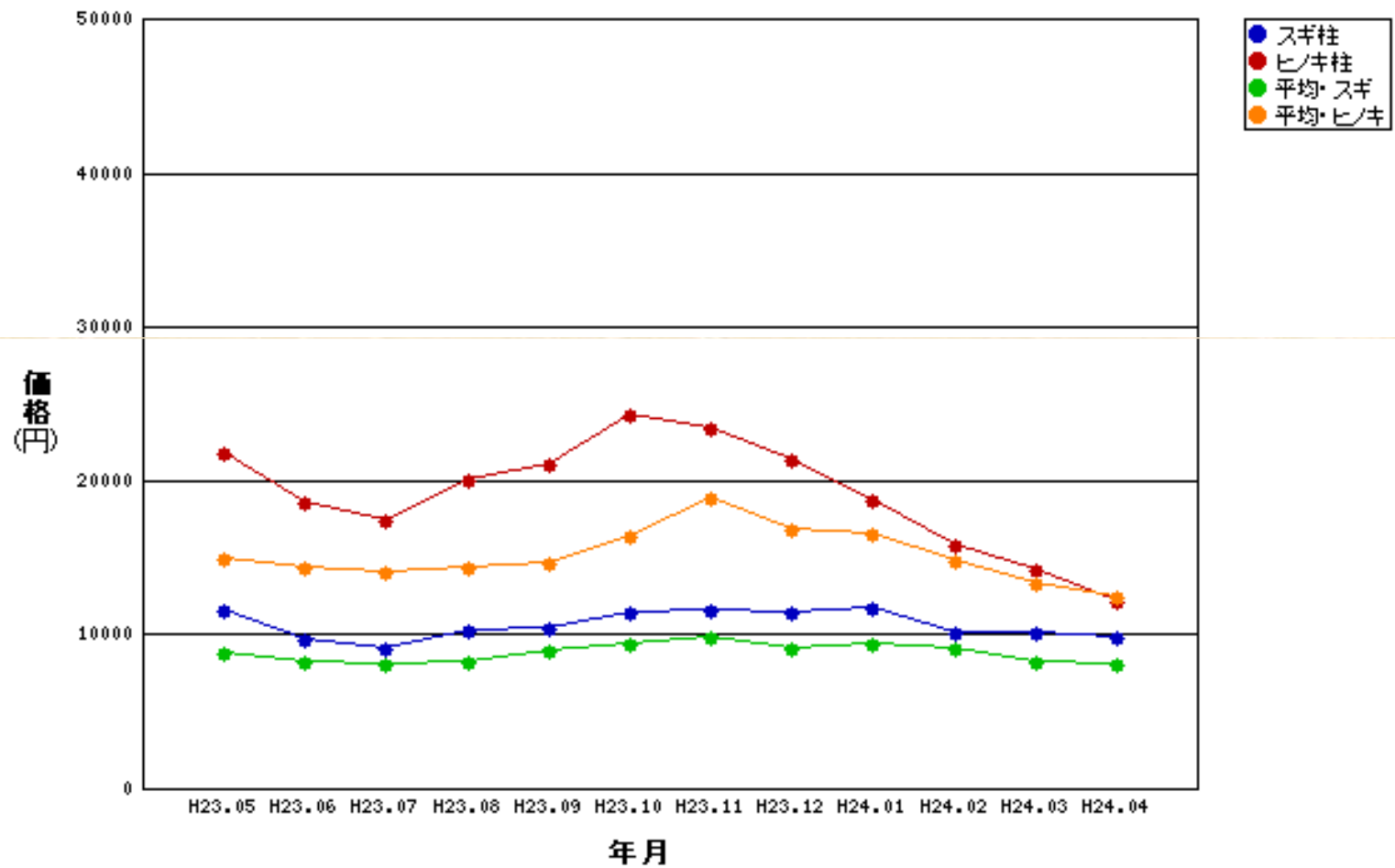


海へも



市場も破壊されてしまう

北宇和木材市売場のグラフ



市場も破壊されてしまう

嶺北木材共販所 803回 23年12月12日

材長	樹種	杉			桧		
	径級	直	曲	動向	直	曲	動向
4.0m	6~8	12,500	12,500	→	13,000	13,000	→
	9~12	9,000	7,800	→	11,700	9,200	→
	13	8,200	7,800	→	17,100	9,200	→
	14~16	10,800	8,500	→	27,850	16,000	→
	18~22	15,100	10,900	→	23,900	18,800	→
	24~28	15,100	12,200	→	22,180	17,800	↓
	30~32	13,000	11,000	→	24,000	19,000	→
3.0m	6~8	8,000	8,000	→	8,000	8,000	→
	9~12	8,500	7,500	→	9,000	8,000	→
	13	8,380	7,500	→	12,800	8,000	→
	14~16	12,800	11,200	→	25,500	18,600	→
	18~22	14,600	11,800	→	23,850	18,600	→
	24~28	14,000	11,700	→	19,000	16,000	→
	30~32	13,000	11,000	→	18,000	16,000	→
6.0m	16~18	16,000	15,000	→	30,000	28,000	→
	18~20	18,000	16,000	→	30,000	27,000	→
市況	出荷量は安定しています。 価格は、前回市とあまり変わりなかったですが、今回は、他の市場の市況からも杉・桧ともに若干弱含み。						
	杉…やや弱含み 桧…やや弱含み ☆次回共販市H23年12月21日です宜しくお願ひします ☆次回つち日月日～月日元倒は控えて下さい						

嶺北木材共販所 811回 24年4月13日

材長	樹種	杉			桧		
	径級	直	曲	動向	直	曲	動向
4.0m	6~8	12,200	12,200	→	12,000	12,000	↓
	9~12	7,100	6,400	→	7,500	7,000	↓
	13	8,000	6,400	→	12,000	7,000	↓
	14~16	10,500	7,700	↓	19,000	14,000	→
	18~22	13,800	9,000	↓	17,500	14,000	→
	24~28	13,100	10,800	↓	16,000	13,000	↓
	30~32	12,500	11,000	→	17,000	15,000	→
3.0m	6~8	7,000	7,000	↓	7,500	7,500	↓
	9~12	6,000	5,500	→	5,500	5,000	↓
	13	6,000	5,500	→	8,800	5,000	→
	14~16	11,000	9,000	↓	15,000	13,000	↓
	18~22	11,000	9,000	↓	14,000	13,000	↓
	24~28	11,000	9,500	↓	15,000	12,000	→
	30~32	12,500	11,000	→	17,000	15,000	→
6.0m	16~18	16,000	14,000	→	25,000	23,000	→
	18~20	18,000	16,000	→	30,500	28,500	→
市況	今回市は、4,000m3を越える出材となりました。 市況は、依然として製品の動きが悪く、杉・桧ともに下落しました。 低調な相場は、少し続きそうな気配です。						
	杉…値下りしました。 桧…値下りしました。 ☆次回共販市H24年4月26日です宜しくお願ひします ☆次回つち日5月9日～5月23日元倒は控えて下さい						

林業関係者も



今日は午前中の中間検査を終えて、午後から県森連と協議をさせて頂いた。図らずも、今日は富士木材センターの市の日で残念ながら6割近くが不落！運悪く常務が一番ご機嫌が悪い時に行ってしまった。常務曰く「国策だかなんだか知らないけど、これだけ材がはけない時に増産なんて馬鹿言ってるんじゃない。材価を下げて山側を苦しめるだけだ！」といきなり凄い剣幕。そうも言っても動き出さなければ縮小するのみ。結局は、次の世代に誇れる森林を残すため、今私達にできることを全力でやろうという事で合意した。月曜日の推進会議が楽しみです。(^^)

 いいね！を取り消す・コメント
静岡市付近



今日の市では、約半分の材が不落になった。そのほとんどがヒノキの柱材。ヒノキ神話は崩壊してしまうのだろうか。



 いいね！・コメントする・投稿をフォローする・20時間前・静岡県静岡市付近

FITの買取価格と規模の問題点(木質バイオマス発電)

- 「未利用の間伐材・林地残材」=33.6円
 - ・原木買取価格:1~1.5万円/m³の可能性
 - ・未利用の間伐材=熱利用材、パルプ材、合板・集成材、建築用材と競合する
- 規模の制限なし(大規模への誘導)
 - ・1箇所にて大量木材消費が発生し、大量生産を誘発



大規模な木質バイオマス発電は

木材産業破壊・森林環境破壊誘発の可能性大

大量生産・大量消費型の大規模木質バイオマス発電は地域の木材産業破壊の恐れ

- 「未利用材」であるから木材産業とは競合しないの誤り → 未利用材は既存産業と確実に競合する
- 「林地残材」は間伐・皆伐双方で、大量に発生する
- 熱利用材・パルプ用材・合板用材・建築用材より買取価格の高い「未利用材」「林地残材」が発生する
- そうなると、間伐された材は全て「未利用材」となり、皆伐された材のほとんどが「林地残材」となる
- 現在の建築用材のほとんどが間伐材、そうなると建築用材は皆伐して確保するしかなくなる。パルプ、合板等も同様
- パルプチップ業者が発電チップ業者に変身の可能性

5千kwhや1万kwhは大規模

- 5千kwh = 10万m³ / 年 = 333ha皆伐分
- 1万kwh = 20万m³ / 年 = 666ha皆伐分
- 間伐で対応すると、その3倍の面積
- この使用材量、面積とも持続可能なものではない
- **木材産業との競合、森林環境破壊に直結**

**地域の木材産業は大混乱、
荒い間伐・皆伐(ハゲ山)増発による
森林環境破壊につながる**

儲かるのは発電事業者や大規模資本では、都市部の企業が地域を利用するという、これまでの繰り返しに

今後の展開

- **自伐林業方式の確立**
 - 1) **集落営林型**
 - 2) **大規模山林分散型**
 - 3) **森林組合対応型**
- **百業型自伐林家事例づくり**
- **自伐林業の経営安定化策**
- **土佐の森方式の全国展開**
- **自伐林業による津波被災地復興支援の広域展開**



今後ともよろしくお願いします。

By NPO法人 土佐の森・救援隊 中嶋 健造